

東信ブロック研修会の開催

11月1日、南佐久、北佐久、上小の3支部による東信ブロック研修会が小諸市のグランドキャッスルホテルにおいて行われました。上小支部からは、8名が参加し、全体で25名による意見交換が行われました。冒頭進行役の北佐久支部長より、今話題となっているTPPは、何としても避けなければならないといったあいさつがありました。

それぞれの支部の農政対策委員より事例発表がありました。

北佐久支部では、畜産経営の阿部氏が南佐久では、高原野菜栽培の由井氏が、上小からは水田経営の荻原氏が自分の家の経営や後継者のことについて発表しました。続く意見交換では、主にマーケティング、販売方法・戦略について意見交換をしました。農経協のHPを見た人から紹介があり、ギョーザ店へ野菜の契約販売が始まり、HPの威力を知ったという意見、有機野菜がヒットして高値取引が行われている事例などが出され、白熱した議論が続きました。最後に佐久普及センター所長より、農業界を牽引するみなさんの声をどんどん行政につなげてほしいという言葉でしめくられました。



3支部代表
より事例発表
意見交換



盛り上がった
懇親会

お知らせ**★ 上小支部の総会について**

本年度の総会を下記により開催します。夫婦同伴でお出かけ下さい。

日時：平成23年3月14日（月）午前10時～午後2時

場所：東御市 ゆらり館

当日、飯塚芳幸さん、永井忠さんの受賞をお祝いしたいと思います。

また、次年度の農業雇用事業の説明も行う予定です。

★ 会員のトピックス

信州食材お披露目会へ参加

11月24日、東京都文京区のホテル椿山荘において信州の農産物や加工品を紹介する「信州食材お披露目会」と商談会が行われました。農業経営者協会も信州食材のマーケティングに協力するため、このイベントに参加しました。当支部からは、2件の出品をしました。東御市の竹内さんから、ぶどうジュースやジャムを同じく北御牧の柳沢さんから八重原米を出品し、多くの人に試食をしてもらいました。今後の販路拡大が期待されます。



渡邊隆信氏アグロ・イノベーションで熱弁

11月25日、幕張メッセで開催されていた全国規模の農業イベント“アグロ・イノベーション”の国際カンファレンスで、渡邊隆信さんが講演をされました。

「農業経営者の海外進出の狙いと問題点」と題するセミナーにおいて、境界なき農業—世界が私の農場—というタイトルで話されました。

渡邊氏は、20代の時、10年間フィリピンで、ぶどう栽培の技術指導をされました。帰国後、サラリーマンを経て、親の築いたぶどう園を継いで経営を開始。現在は、独立就農希望の研修生を入れ、2haのぶどう園を経営しています。

自身の海外体験を活かして、日本の高級ぶどうを外国の富裕層向けにマーケットを開拓したり、また、海外に農場をつくり、生産したものを日本の端境期に販売するといった海外進出に向けた意欲を話されました。



講演を行う渡邊氏

永井忠氏日本農業賞大賞受賞

東御市の永井忠さんが日本農業賞の県代表に選ばれ、全国の最高位にあたる大賞を受賞されました。

若いころより、酪農と稲作を主体に規模拡大し、地域の水田を請け負う中心的な担い手となり、(株)永井農場の会長として、今日の経営を築いてこられました。

酪農を組合せた有機リサイクルによる土づくりを基本とした米作りの他、ぶどう、ニンニク栽培と多角化しています。さらに6次産業化を図り、ジャム、ジェラード、菓子の製品化、販売まで及びまさに「売れる農業」を築き上げました。

また、農業体験・研修生の受入や小中学生への食農教育、消費者との交流も図るなど、担い手育成、地域活性化への貢献も大きい存在です。



上小地域県議会議員との農業振興懇談会開催される



1月12日(水)上田市の「香青軒」において上小地域県議会議員との農業振興懇談会を開催しました。

当会支部会員と農村生活マイスター、農業士協会、農業青年クラブ協議会、JA信州う えだ青壮年部協議会のみなさんも参加し、5名の地元県議とじっくりと語り合うことができました。



以下懇談の内容です。

○高村県議

農業は、生命をつなぐ産業である。食糧、水、空気を大事にしていけないといけない。戸別所得補償も大事。小さな農家も大事にしないといけない。景観保全、環境、里山保全につながる。夫婦農業でもやっていけるように、労働対価、生産費を主張していく。

○平野県議

T P Pの本音を聞きたい。実態知りたい。安全、安心求める声が多い。
親の仕事が継ぎづらくなっている。良い智恵出していこう。

○保科県議

農業は大切な産業である。国策としての農業施策がとれていない。
新規就農者の育成は行政の果たす役割大きい。首都圏の人、やりたい人をサポートすること行政として大事。家の確保、資金など行政の支援必要である。県独自の支援策は里親制度のみ。ほとんどが国からの事業、これをうまく使うことが必要。
県には、いろいろなことを行う部署がある。マーケティング室もある。農家に利用してほしい。農業は、食に通じるため、なくすことはできない。補助金を出して支えていくことは必要である。どこの国でも行っている。全部の農家を救うことは、無理であるが、国際化に通用できる農家、生きていける施策が必要。

○島田県議

本来の農業農村は心、魂に通じる。食育の全国大会に参加する。フードの資源自信をもって発信していこう。
有機農業志向の新規就農者が増えている。マーケットまで含めて、支援してほしい。ヨーロッパには限界集落、荒れたところはない。地元市場があり、地産地消行っている。そのような場が必要ではないか。地域全体を売り込んでいくことが必要。農業・農村の価値を売る。観光との連携も必要。

○下村県議

島田さんと農政林務委員やってきた。監査委員もやり、いろんな部署を回った。
農村の維持のため、JAのT P P反対集会に出席した。絶対に反対していく。
行政に求めるばかりでは、ダメ。自分たちでやらないと。
マーケティング、大きな流通システムにのること足りないのでは？魅力ある作物、特色ある作物づくり、全国どこへ出しても、負けないブランド農産物作ってほしい。

出席者の意見

(1)担い手対策について

- 新規就農者への施策も充実してきたが、就農する時に、施設整備で資金が必要である。参加者は借りづらい。担保、保証人県外の人でもとれるようにしてほしい。

→下村県議より 資金貸付に対する連帯保証人制度をなくし、信用保証協会システム、手続きの簡素化が必要。保証保険も必要だ。提案していきたい。

- 農業青年クラブ大変活発な活動をしている。組織に入り、農業青年と出会えたことが一番のメリットであった。

イベントに参加するが、農家だけで、消費者不在に疑問を持っている。

農家だけでなく、商業、温泉観光地等いろいろな業界と連携していきたい。



- 農地をあらさないで、ブドウづくりをすすめている。農業をやりたい人への教育、担い手育成も行っている。海外技術協力も行ってきた。これからも海外へ進出していきたい。
- 高齢者となったが、後継者育成をやっている。研修生(実習生)70人程受け入れてきた。今、農業やりたい研修生を受入している。とても熱心で、知識もある。意欲ある人が多くなってきている。ハウストマト、キュウリをやりたいので、土地を心配し、支援していく。
- 上小にマイスター60人程いる。県の研修を受け、女性リーダーとして託されている。パートナーシップを築き、女性も男性と対等にやっていく。家族経営協定進めている。
- 農家の後継者は、一番ポテンシャルを持っている。農業やる可能性高いが、親が儲かっていないとやらない。農業が儲かるんだ、楽しいということを我々から発信したい。
面白い産地づくりをし、たくさんの人に来てもらいたい。どうしたら産地一丸となってもり立てていけるか、JAも個人も良さを出してやっていきたい。

(2) 所得対策、TPP関連

- TPP農家にとっては、脅威であるが、押し切られるのではないか。JA信州うえだで付加価値つけて販売していく。チャンスとして考えていった方がよい。
- TPP実行されるまで、どこまで耐えられるか。農家がフルイにかけられる。
戸別所得補償は、バラマキである。効果を上げられるか疑問。
県、市は、TPPに対抗した対策すすめてほしい。
- 商売のノウハウ、開発、流通等の相談窓口がほしい。→県議よりマーケティング室利用して
- 異業種との交流進めたい。農業経営トップリーダー育成する塾を開催してほしい。
- 海外へ進出したい。農業だけが、特別な産業に見られている。普通の産業に扱ってもらいたい。TPP受け入れる準備をしていかないとダメだ。
→県議 農業は、他産業と違うので、保護すること必要との意見。

(3) 鳥獣害、農村活性化対策について

- 鹿が増えている。全体の個体数を減らさないとダメだ。よそへ逃げていくだけである。高齢化して、駆除も大変である。自衛隊で駆除してもらえないものか。
→下村県議より前述のように自衛隊にやってもらうのは、むずかしいが、無許可でもワナが使えるようになったので、勉強して取り組んでやってほしいとのこと。

3時間半にわたる熱心な意見交換を行いました。マーケティングへの関心、話題が多くありました。県会議員の方々には、いろいろな農家の意見を聞いてもらえたと思います。